

デンマークの在宅ケアと訪問看護

齋藤泰子

宮城大学看護学部

キーワード

在宅ケア、サービス、看護職、訪問看護、デンマーク

Home Care, Home Care Services, Nurses, Home Care Nursing, Denmark.

要 旨

2001年6月10日から15日にデンマークの首都コペンハーゲンで第22回ICN(国際看護協会)大会が開催された。その際に研修したデンマークの在宅ケア、訪問看護、看護職の職務と役割について報告する。

Home Care & Home Care Nursing in Denmark

Yasuko Saito

Miyagi University School of Nursing

Abstract

This report shows that Home Care & Home Care Nursing, the Task and Role of Home Care Nurses in Denmark. By a study tour, ICN (International Council of Nurses) 22nd Quadrennial Congress was held on 10-15 June 2001, Copenhagen in Denmark.

1. はじめに

平成13年6月9日から17日の9日間にわたり、私は、ICN（国際看護協会）4年毎大会で研究発表するためデンマークの首都コペンハーゲンを訪れる機会に恵まれた。（宮城大学国際化対応海外特別旅費による）そこで学会最終日に行われた「デンマークの在宅ケア」一日セミナーに任意参加した。このセミナーからデンマークの在宅ケアについて報告する。このセミナーは、レネ・ホルンダー（Lene Hollander, RN, M.N.Sc.）元コペンハーゲン市在宅ケア課長で、現在は在宅ケアコンサルタント会社を開業している看護職が行ったものである。レネ・ホルンダー氏は、8年前に日本看護協会の先駆的保健事業関連（デンマークの在宅ケアから学ぶ水口町ワークショップ）で来日経験のある親日派で日本の状況もふまえたセミナーであった。

2. デンマークという国

デンマークは、面積約43,000平方km（日本の九州と同じくらい）の“パンケーキのように”と称される平たい台地（ドイツと国境を接しているユトランド半島とその東側に連なる大小の島々からなる）の小さな国である。人口は、533万人（2000年）、1970年から地方分権が進み、1000のコムーネ（市町村）を275に整理統合した。このねらいは、財政的にある程度の規模が確保できうるサイズに整えたということにある。アムトと呼ばれる14の県があり、275のコムーネ（市町村）のうち人口5万人以上の市は9市である。地方分権が徹底しており、例えば、医療（県立病院経営や地区医：GP：General practitioner）はアムト（県）、福祉やSocial serviceはコムーネ（市町村）といったように、国・県・市の役割分担がはっきりしている。

経済水準は現在の日本に似たような状況の国である。農業国であり、日本には豚肉を輸出、日本からは車を輸入しているという相互関係がある。

「貧乏人の少ない国、それ以上に金持ちの少ない国」をめざして、「平凡な人生や普通に働く人々が幸せに暮らせる国づくり」を提唱してきている。また、「困った人をほっておけない」「二人寄れば組合をつくる」といった「連帯意識」が旺盛であ

るといわれている。¹⁾

3. デンマークの医療体制

医療は県が担当しており、国民は指定された中から近隣の地区医：家庭医（GP）を選択する。入院治療が必要な場合は、県立病院に紹介されるといふしくみになっている。このしくみは、市民登録を基に、個人のID番号とともに、住所・生年月日・家庭医名・入院歴等が登録されており、これによって意識を失って病院に運ばれたときでも病歴を知り適切な対応をすることができる。このような、個人-GP-専門クリニック-地域（県立）病院を結ぶ「医療情報システム」が整備されている。もちろん個人情報厳しく管理されているという。国民のほとんどが医療保険に加入しており診療や処方費用はこれにより基本的にほぼ無料で提供される。

4. デンマークの社会福祉体制：すべての人々に対するセーフティネット

デンマークの高福祉については大変よく知られている。一番有名なのは、高福祉が納税者によって支えられている「高負担・高福祉」＝「デンマークモデル」といわれるものである。高負担故の高福祉ばかりが目されるが、重要なことは、すべての人々に対してセーフティネットがもたらされるという社会システムである。例えば、デンマークの高齢者は年金で経済的に自立しているし、67歳以上の人々は希望すれば安い家賃で高齢者住宅に入居できる。また、義務教育や大学の授業料も無料である。医療も先に述べたように基本的に無料で提供される。デンマーク社会の考え方は、安心と幸せを大事にすることが大原則であり、高齢者のケアのために他の国に類を見ない多くの資源を使い、自分自身で自分のことができなくなった高齢者に対するケアの提供は公的に行われている。

5. デンマークの在宅ケアの理念：「できるだけ長く自分の家で」

デンマークにおいても高度経済成長期（1960年代）に、女性の社会進出が進み「行政」に子どもと高齢者をみるのが課せられる。このことが在

宅ケア推進の原動力となった。更に、1970年代には保健と福祉の統合が着手される。当時は、訪問看護とホームヘルプサービス部門の連携はなく、ホームヘルパーの教育もわずか3週間というお粗末さであったが統合され教育についても是正された。高齢者の社会的入院も多く、病院は込み合い、老人ホームであるNursing homeやResidential homeの空きを待つ人たちもあふれているという現在の日本のような状況であった。1980年代になって、政策により、病院数、在院日数を減らし、外来来院数が増えていく。現在、デンマークの在院日数は約7日、日本は40日を越える。このようにデンマークでは、政策として「施設」ケアの時代から「在宅」ケアへの大転換がなされ、訪問看護やホームヘルプを受けながら「できるだけ長く自分の家で」がデンマークの在宅ケア・高齢者福祉の基本理念となった。よって施設をつくることは中止となり施設数は減少している。

6. デンマークのHome Care Nursing：訪問看護

「在宅」政策のおかげでHome Care Nurse数は激増している。Home Careの対象となるのは、①Elder Peoplesと②Young handicappedが主である。Home Care Nurseは日本の「訪問看護婦」であるが、すべて行政機関（市町村）に所属している。日本の訪問看護婦の所属は、訪問看護ステーションなど民間が多いのと対照的である。日本でいういわゆる保健婦（Public Health Nurse）は、主に母子保健・学校保健といった限られた予防活動に携わっており、在宅ケア分野においてはHome Care Nurseが実権をとり活躍している。

Home Care Nurseは、以前には医師の指示の元で動いており、ホームヘルパーとも別々に乖離してサービスを行っていた。1980年代になって、在宅ケアに関わる職種をまとめてチームとし、Home Care Nurseはチームワーカーとなった。そしてホームヘルパーより自分たちが仕事ができるということを誇示していった。

1) Home Care Nurseの教育と高齢者観

Home Care Nurseになるには、通常の看護教育（デンマークでは、高卒後3年9ヶ月）を受けた後、内科・精神科・皮膚科を含んだ最低2年間の

臨床経験が条件とされている。なぜなら、在宅ケアの場合は、Home Care Nurseがひとりで行動することから経験が必要とされるからである。これに比して、ホームヘルパーは1年、アシスタントナース（准看護婦）は2年6ヶ月が教育終了年限である。

4半世紀前には、デンマークのナースの間でも「寝たきり」高齢者は天国への片道切符を手にした「そっとしておく」人々であるといわれていた。しかし、今では、「起きてごはんを食べなさい」と起こし、新しい空気を肺にいれ、活動することが大事だといわれている。高齢者観が変化してきているのである。

2) 利用者主体の考え方と住宅政策

ケアを必要とする人々は、User（利用者）と称される。在宅ケアの主役（ボス）は、利用者本人という「利用者主体」の考え方がしっかりと根付いている。なぜなら、利用者は、納税者であり首長を選ぶ選挙権をもっているからである。UserをとりまいてHospitalとGP（General practitioner）地区医、Home Care departmentが、協力し、チームワークで高齢者のケアと予防にあたっている。

（図1：利用者中心の連携）Userが直接Home Care departmentへアクセスすることも可能である。GPとHome Care departmentの連携はとても良い。医師の指示は、在宅で何か医療処置をするときにのみ必要となり、CareはHome Care Nurseの独自の判断でして良いことになっている。

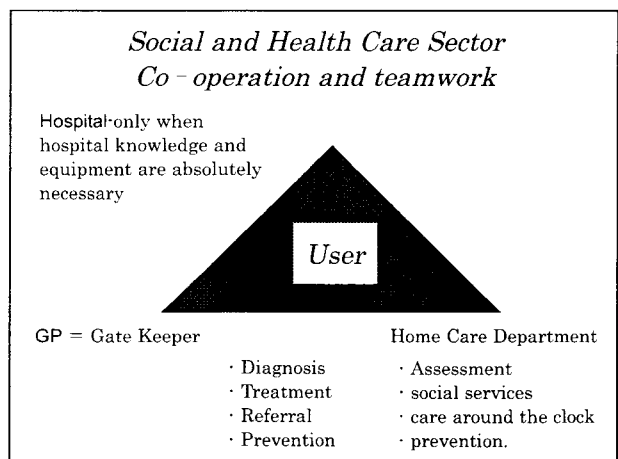


図1 利用者中心の連携

1996年から80歳以上の全高齢者を対象に「予防訪問」がなされるようになり、1998年7月には年齢が75歳に引き下げられた。この予防訪問は、「元気に暮らしているか」「できるだけ残存能力を使って暮らしているか」「外に出て友人との交流を楽しんでいるか」など健康面と社会面から高齢者の生活をアセスメントし、問題があればデイセンターのエクササイズや定期的なリハビリを紹介し残存能力の活性化が図られるというものである。

デンマークの高齢者は、入院日数の短縮や施設を削減していることなどから、自分が自分らしくしていただける「在宅」で療養する者が増えている。高齢者が住みやすい住宅にするために、2階以上の建物にはエレベーターの設置が義務づけられるなど変革されている。またResidential Nursing Homeに変わって、新しい「高齢者住宅」の設立が推進されている。

3) デンマーク看護職の在宅ケアの基本となる考え方

デンマークでは「ホームナース制度に関する法律」(1974) に大変重要なことが謳われている。

◎Personal care. ◎Help for keeping up skills.
◎Relief breaks to support family care givers.

つまり、「個々のニーズにあわせたケア」、「やってあげるのではなく、自立を目指して」、ケア提供者である「家族を手助けする」ということが明文化され看護ケアの考え方の基本となっている。在宅ケアの実施主体は、地方自治体であり、24時間、無料で、ほとんどが「公的」に行われている。民間業者の参入は、Cooking. Shopping. Cleaning. の3業務が認められているにすぎない。身体のケアはあくまで、地方自治体に所属するHome Care Nurseやホームヘルパー、OT、PTが担当する。

4) 在宅ケアの組織と連携

地方自治体のHome Care departmentの組織について図2に示す。この中のLeader, Assessment team, Educational consultantの3役はすべてNurse看護職であり、各Area leaderも看護職である。具体的にコペンハーゲンについていえば、50万人の人口で、15のdistrictに分かれており、90のdistrict nurse home helper team からなり、(図3) 24時間可能な緊急通報を基盤に24時間ケアが提供され

ている。ここでは、毎日district nurse (Home Care Nurse)、Home helper、OT、PT、准看が集まってMorning Meetingが行われる。地区が狭いので、昼も食事に戻りTeam meetingをすることが多いという。医師は所属しておらず必要に応じて医師を要請するしくみになっている。これは、医師の教育にCareやSocial workが課せられていないことが理由であると説明された。デンマークのHome Care Nurseの業務内容の特徴的なものに、eye treatment, foot careがある。これは、眼科の手術は、日帰りもしくは一泊入院で退院となるため、術後のケアをHome Care Nurseが担当する。また、足の処置は、飲みすぎ・喫いすぎ・太りすぎ・糖尿病などが原因で、多くの人が足に傷や皮膚に障害を持つことから必要となっている。

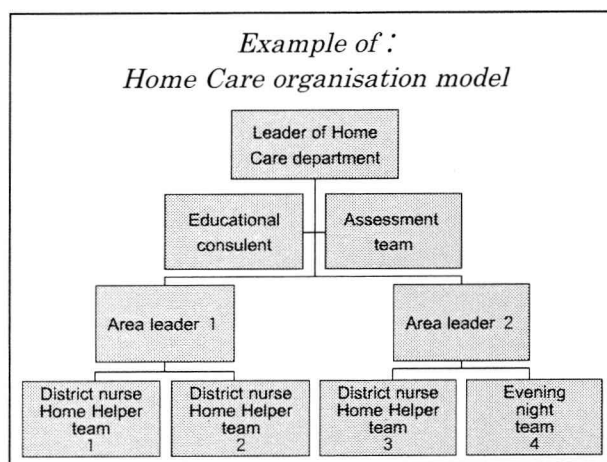


図2 在宅ケアの組織モデル

7. Home Care Nurseの使命：ネットワークづくり

デンマークにおけるHome Care Nurseの一番大きな職務は、他職種との連携ネットワークづくりだと明言された。そのため、Home Care NurseにはGood care managerとしての、①コミュニケーション能力、②時間管理能力、③働く環境の整備能力、④職務内容の公表と誇示、⑤雇用している人の能力や価値を高めていくことができる能力が必要とされる。創造的なアイデアがだせること、限界より可能性をみること、できないわ！無理よ！といわないことが大事であるとも強調された。ケアプランの立案には、関係職種が同じテーブルについて協力すること、対象者と家族の精神的な面

Home Care Organisation

Big City Model

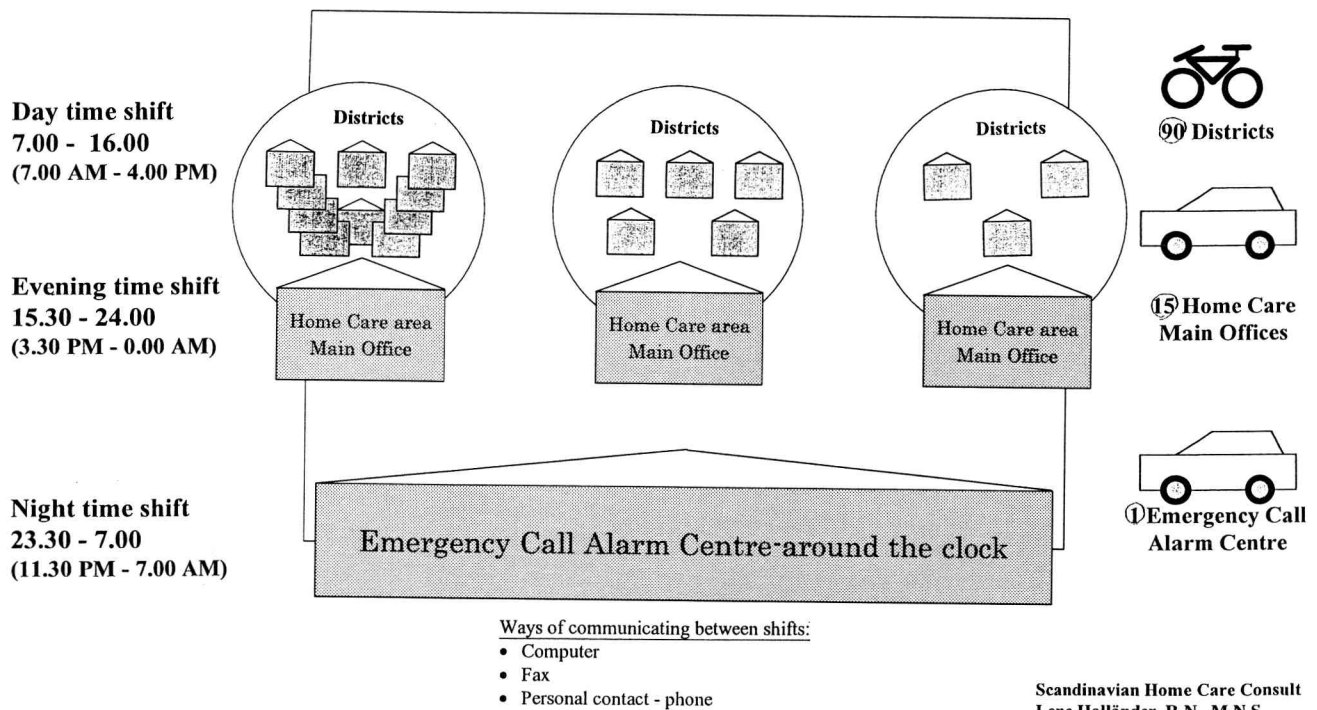


図3 在宅ケア組織 (大都市モデル)

を含めた全体像をみることで、自分たちの技術は見せ掛けや習慣、経験主義をばらまくものでなく、根拠に基づくものでなくてはならない。在宅ケアへのアクセスをよくすること、社会資源の発掘と開発も課題である。最後に、地域の高齢者や障害者を持っている人々を正確に把握し、どうあったらいいのかを考えていくことが在宅ケアに関わる看護職の大きな目標であるとしてセミナーは終わった。

8. おわりに

在宅ケアの行き届いた国、福祉先進国デンマークの在宅ケアと看護職の職務や役割について報告した。デンマークの在宅ケアを1日疑似体験しその発展プロセスを学ぶことによって日本の在宅ケアのあり方に何が生かせるのか考えてみた。人口規模・国民性・国家としての在宅ケア政策・福祉

に対する考え方など、日本とは、違った面がさまざまなある中で、「訪問看護職が行政に所属している」つまり日本の市町村保健婦の立場にあると考えてよいこと、「在宅ケアのリーダーシップを看護職がとっていること」、単にケアを運ぶことに終始せず、「地域で生活する高齢者や障害者の生活がどうあったらいいのか」といつも目標を描いて活動していることに注目した。デンマーク看護職の地域看護管理者としてのリーダーシップや目標管理の考え方は、日本の市町村保健婦に行政に所属する看護職の公的責任の方向性と示唆を与えてくれるものではないかと考えたからである。

引用・参考文献

- 1) 松岡洋子「プライエム（老人ホーム）を超えて：21世紀デンマーク高齢者福祉レポート」かもがわ出版 2001

- 2) 日本看護協会「デンマークの在宅ケアから学ぶ
ー水口町ワークショップ報告ー」日本看護協会
1995
- 3) 日本看護協会「変革期における看護職のチャレ
ンジー英国・デンマーク・スウェーデンの地域看
護活動からー」日本看護協会 1994
- 4) 中山博文「老いを自分の家ですごしたいーデン
マークの老人福祉と社会福祉ー」保健同人社 1994
- 5) 研修資料「How are Home Care services organized
in Copenhagen and countryside in Denmark」
- 6) 研修資料「Social Services and Home Care in
Denmark」